

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400228		
法人名	社会福祉法人 実寿穂会		
事業所名	グループホーム ポート賀茂		
所在地	福岡市早良区賀茂4丁目41番30号		
自己評価作成日	令和6年10月10日	評価結果確定日	令和6年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1F	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和6年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様が「今を生きる」という理念のもと、自分の存在をどのように感じ、どのように充実した日々を送りたいかを理解することに力を入れています。認知症の方々には、記憶に頼らず視覚認識を活かした特有の視覚的支援を提供し、それぞれの「思い」やご家族の「願い」を大切にしたいケアを行っています。認知症に人が、温かく安心できる暮らしを築くことを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、公共交通機関、金融機関や一般量販店等が多くある住宅街の中に「グループホーム ポート賀茂」は建っている。近隣に様々な社会資源があるため、利用者と一緒に散歩に行ったり買い物に行ったり、思い思いの時間を過ごす事が出来る環境である。24時間365日医療面に対応が可能な医療機関が協力医であるため、看取り介護も対応出来る点や夜間帯でも医療機関との連携が図りやすい環境である点は、特に優れていると感じる点である。また、職員の研修実施体制もしっかりとしている。eラーニングを中心に全職員が研修を受講できる体制を整えている点も、特に優れていると感じる点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「今を生きる」を大切に、入居者一人ひとりの強みやできることを尊重し、それを最大限に活かした支援を心がけています。スタッフ同士も、この理念を常に共有しながら、入居者が自分らしく充実した毎日を送れるよう、サポートに努めています。	職員に理念を浸透できるように、事務所内と各ユニットに掲示をしている。月1回のユニット会議、都度のミニカンファで理念の確認をしている。職員都合で動くのではなく、利用者都合で少しでも動く、利用者に今を楽しく生きて頂きたいという気持ちで業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館での活動や介護講座、RUN伴イベントへの参加を通じて、地域とのつながりを深め、入居者の生活がより豊かになるよう努めています。今後も安全を第一に考えつつ、意義のある地域交流を続けていく予定です。	利用者が作成した書道の作品を展示してもらったり、公民館のサークル活動に参加したりしている。地域の食事会に利用者が3名参加されている。音楽活動をしているボランティアの方が、週1回日曜日にボランティアに来てくださっている。回覧板と一緒に「賀茂公民館だより」が回ってきて、地域の行事を知ることができる環境である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館での活動参加や介護講座の開催、RUN伴イベントへの積極的な参加を通じて、地域との連携を深めながら、入居者の生活の質向上に取り組んでいます。今後も、安全対策をしっかりと講じながら、有意義な地域交流活動を続けていく予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催しています。報告書には入退去状況、苦情や事故の報告、スタッフの研修内容、過去の行事の報告などが含まれています。家族参加についても、イベント開催時などに運営推進会議を行っている。	参加者には、社会福祉協議会、地域包括支援センター職員、公民館の館長、利用者、利用者家族、事業所の職員等が参加している。地域包括支援センターからは、サービス内容や利用者との関わりを理解することができたとのコメントを頂いている。家族からは事業所内の活動や、事業所についてのコメントを頂いている。運営推進会議の案内は、全ての利用者家族に送付しており、少しでも参加して頂けるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福岡市への相談は電話ではなくメールで行い、地域包括支援センターには定期的に運営推進会議や広報誌の報告をしています。また、地域包括支援センターと協力し、介護保険講座を実施しました。	福岡市には、事業所の運営上の相談をメールでしたり、介護事故が生じた際はメールで事故報告をしている。おむつ給付申請時は、おむつ業者が申請をしてくれている。早良区の「事業所ネットワーク」に職員が所属していて、一般市民向けの講座の依頼があるので、出前講座をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が外出を希望する際は、積極的に支援を行っています。また、身体拘束廃止委員会を設立し、定期的に研修を実施し、職員に身体拘束防止の取り組みを徹底しています。	現在、身体拘束をしている利用者はいない。センサーを利用している利用者が3名いる。センサー利用については、家族からセンサーを付けてほしいとの希望がある場合もある。センサーを利用している事についてはケアプランに記載している。「身体拘束適正化のための指針」を作成し、「身体拘束適正化・虐待防止委員会議事録」を3か月に1回作成している。また、全職員が議事録を確認した事が分かるようにしている。	

R6.11自己・外部評価表(事業所名GHポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	eラーニングを導入し、高齢者虐待防止の研修を職員に提供しています。この研修を通じて、職員同士が虐待への意識を高め、積極的に虐待防止に努めています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の方が成年後見制度を利用されています。この制度に関する説明はホーム長が入居者の家族に対して行っています。さらに、権利擁護に関する研修はeラーニングを活用し、職員に定期的に周知しています。	成年後見制度を利用している利用者が2名いる。後見人は毎月訪問があって様子を報告したり、何かあった際は事業所側から成年後見人に連絡をすることもある。 eラーニングによる研修や伝達研修を実施している。研修実施後は研修報告書を作成している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や制度改正の際には、書面にて契約者や重要事項説明書、改正による同意書を作成し、詳細な説明を行った上で同意をいただいています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケートを活用し、入居者と家族からのフィードバックを収集しています。毎月、担当者からは入居者の個別の近況報告を写真付きで送付し、入居者の状態を家族に報告しています。	各ユニットにはご意見箱も設置している。また、毎年、家族アンケートを実施して、家族の意向を少しでも聞き入れる様に努力している。面会に関しての要望が一番多く、事業所内での生活が見えにくいという意見も出たため、現在は日中であれば面会が自由にできる様にして、家族の仕事の都合によっては、面会時間を融通している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全員参加の全体会議を開催し、法人本部の管理者もリモートで参加しています。職員の意見を反映するため、定期的にミニカンファレンスを実施し、入居者の情報共有を行っています。	毎月の全体会議は全職員が参加している。また、法人本部の管理者も参加し、職員がいつでも運営に関しての意見が言えるような環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年ごとに職員面談を実施し、各職員の勤務状況を把握しながら年間目標を設定しています。面談では過去の目標達成状況を確認し、新たな目標を共に決定することで、職員のやりがいとモチベーションを高め、働きやすい環境づくりに努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	多様な国籍の社員が働き、一人ひとりの強みを活かして目標達成を応援しています。男女比もほぼ同等で、新しい価値を生み出しています。ベトナムやミャンマー出身の社員もおり、国際色豊かな職場です。研修やサポート体制も整え、社員の成長を後押ししています。	20歳代から60歳代後半の職員が勤務している。また、外国の方も勤務している。職員も職員同士のコミュニケーションが円滑にいくように、外国の方の気持ちや、何が分からないのかという気持ちを汲み取りながら関わっている。新人研修の中に人権に関する研修を実施している。	

R6.11自己・外部評価表(事業所名GHポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権とプライバシー保護のために、eラーニングを活用した研修を実施し、職員の意識向上を図っています。具体的には、プライバシーの基本概念、介護現場での配慮、個人情報の取り扱い、尊厳の保持などを学びます。これにより、安心して生活できる環境を提供することを目指しています。	人権教育や啓発活動に関しては、主にeラーニングで研修を実施している。新人研修の際に主に学習の機会を得ている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTは、実務を通じて職員のスキルを向上させる効果的な方法です。教育スケジュールに基づき、ケアの実践状況を確認し、課題を抽出し、目標を設定します。また、外部研修や法人内研修で知識を広げ、質の高いケアを提供します。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が事業所ネットワークに参加し、意見交換を行うことで、地域のネットワークを強化し、勉強会を通じて事業所の質を向上させています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の思いや希望、不安、要望を把握するため、24時間暮らしの情報シートを家族に提供し、記入してもらっています。これにより、入居者が望む暮らしを実現できるよう努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、困りごとや不安を確認します。ユニットケアの運用方法を説明し、安心して利用できるようサポートします。このアプローチで信頼関係を築きます。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族の課題やサポートの必要性を評価し、他の事業所への見学を提案します。これにより、最適な施設やサービスを選ぶ参考になります。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を生活の主体と捉え、意欲や可能性に着目した生活支援を提供しています。このアプローチは職員間で共有され、入居者との信頼関係を築く上で重要です。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者会議や他の場面で、入居者の家族の意見を積極的に聴取し、入居者の希望に対する家族の関わり方を話し合います。このプロセスを通じて、入居者と家族の絆を深め、信頼関係を築く提案と支援を提供しています		

R6.11自己・外部評価表(事業所名GHポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「夢実現」を叶えられるように、入居者自身の言葉を大切に受け止めています。家族と協力し、入居者が今できること、そして必ずできるように支援しています。	利用者家族の方の面会も多く、面会が多い利用者ですと2日間に1回のペースで面会に来られている方もいる。家族以外にも親戚の方や近所の方等も面会に来られている。利用者が携帯電話を所持していて、いつでも電話連絡が出来るようにしている。「ポート賀茂だより」を各ユニットで2ヶ月に一度作成し家族にお渡ししている。グループホーム入居後も、生活状況が家族に伝わる様に工夫している。	毎月の「ポート賀茂だより」は、写真付きで生活状況が分かりやすく作成されていますので、今後も継続してください。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が話し合える場を設けたり、レクリエーション活動を通じて楽しくコミュニケーションを取れる機会を提供しています。これにより、孤立することなく、入居者同士の素敵な関係性を築いています。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族と定期的に連絡を取り、入居者の健康等を確認しています。これにより、必要なサポートを迅速に提供し、家族との関係を維持することができます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期面談の際に24時間暮らしの情報シートを使って本人の暮らし方の希望や意向の把握に努めている また現在の生活サイクルに合わせて随時24時間シートの変更を行っている	初回面談の際には利用者本人や家族にもこれまでの生活状況をお聞きするようにしている。状況によっては担当のケアマネジャーに聴くこともある。24時間シートを部分的に使用して、ケアプラン更新時や状態変化があった時に更新をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期面談の際、入居者の本人の暮らし方の希望や意向を把握するために、24時間暮らしの情報シートを活用しています。また、入居者の現在の生活サイクルに合わせ、随時24時間シートの変更を行っています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活サイクルに合わせた支援を行い、落ち着いて生活できるようサポートしています。また、日常の様子を記録し、現状を把握する努力をしています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットの担当者が入居者のプランを作成し、家族への報告や居室管理を行っています。プランは半年ごとに見直し、担当者会議で確認します。目標は24時間シートに反映し、職員が意識したケアを提供しています。	アセスメント作成や毎月のモニタリング作成、ケアプラン作成や計画作成担当者が作成し、毎日のモニタリングは、その日の出勤者が作成している。年1回は必ずサービス担当者会議を実施している。24時間シートも部分的ではあるものの、全利用者について作成している。ミニカンファレンスの中で、介護職員と一緒にケアプランの読み合わせをして、職員もケアプラン作成に参加するようにしている。	ケアプラン第2表には、利用者が希望したことだけでなく、ニーズについて記載してはどうだろうか。また、医療面やインフォーマルサービスにも目を向けて記載してはどうだろうか。

R6.11自己・外部評価表(事業所名GHポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践を入居者ごとに丁寧に記録し、変化があった際には職員同士で話し合い、情報を共有しています。これにより、入居者一人ひとりに最適なケアを提供し、安心して過ごしていただけるよう努めています		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に応じて、個別に対応を行い、食べたい物や行きたい場所などの希望に添えるような「夢実現」を提供しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館への訪問やサークル活動への参加、地域のイベントへの積極的な参加を通じて、地域とのつながりを大切にしています。また、事業所近隣での散歩なども行い、地域との関係を築いています。皆さんと一緒に楽しい時間を過ごし、笑顔があふれる毎日を目指しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族がかかりつけ医を希望される場合、私たちはその希望を尊重し、継続支援を行います。提携クリニックの医師が月2回訪問診療を行い、日常の様子をチェックし、体調不良時には迅速に対応します	現在は、利用者の全員が協力医にかかっている。ただ、在宅で生活していた頃の主治医に引き続きかかりたいとの希望があった際は、協力医に変更しなくても良いこととしている。協力医が24時間365時間対応可能であるため、夜間帯に何かあった際は、職員が一旦管理者に連絡し、協力医に報告が必要だと判断した際は、現場の職員が協力医に連絡して指示を仰ぐようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や体調不良時には、職員が記録した情報を基に入居者の健康状態をクリニックの看護師に伝えます。看護師からの助言や指示を受け、適切な医療サポートを確保しています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入退院時には、医療機関へ必要な情報を提供し、医療情報を共有します。退院時のカンファレンスにも参加し、医師や看護師、ソーシャルワーカーと共にケアプランを話し合います。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年度、3人の入居者の看取り介護を行いました。看取りの段階に移行する前から、終末期のケア方針についてご家族に丁寧に説明し、提案しています。看取り期間中は、入居者とご家族が穏やかに過ごせるよう、面会の機会を設け、心の支えとなる時間を提供しています。また、主治医と連携し、入居者の状態に合わせた適切なケアを実施しています。チーム全体で入居者とご家族を支援し、安心して過ごせるよう心身ともにケアを提供しています。	昨年度は3名に利用者の方の看取り介護を実施している。入居の際や年1回の定期のケアプランの見直し時期に「意向確認書」の内容を確認している。「重度化に関する指針」「看取り介護開始について同意書」を事前に説明して看取り対応をしている。看取り介護の際は、協力医から現在の心身状態について、今後の経過等の医療面の説明をする機会を持ってもらうことで、家族が看取りに関しての受け入れができるよう取り組んでいる。	

R6.11自己・外部評価表(事業所名GHポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、定期的に職員に研修を行っています。具体的な手順や注意事項をまとめ、必要なトレーニングを実施しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回の防災訓練を実施しています。訓練では通報装置や水消火器の使用を重視し、スキル向上を図っています。また、飲料水や非常食を5日分備蓄し、入居者の安全と迅速な対応を確保しています	BCPは作成されている。年2回、火災訓練と洪水対策訓練、地震訓練を実施している。夜間想定訓練も実施している。消防署の立ち合いがあり、機器の操作説明や、防災訓練の講評を頂いている。運営推進会議に際し、地域の方々にも協力が得られるように口頭で呼びかけ、働きかけをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権とプライバシー保護の研修を行い、職員に周知しています。入居者の記録や書類の管理にも細心の注意を払っています。	人権とプライバシー保護の研修は、全職員に対して年1回実施している。利用者の記録物に関しては、他の利用者家族等の目に触れないように管理をしている。排泄介助中は必ず扉を閉めるようにしたり、排泄の事が他の方に分からない様に言動には配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の声に耳を傾け、希望や意欲を理解し、自己決定の機会を提供しています。職員は丁寧に話を聞き、個々のニーズに基づいたサポートを行っています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活ペースやニーズを尊重し、個々の生活スタイルに合わせたサービスを提供しています。例えば、起床時間や就寝時間に合わせた食事提供や、その日の気分に応じたアクティビティを行っています。入居者が自分らしい生活を送れるよう、希望や意向に耳を傾け、それを実現するお手伝いをしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	私たちは、入居者がその人らしい暮らしを実現できるように努めています。例えば、着替えの際には職員が声をかけ、その日の気分に合わせて洋服選びをサポートします。また、居室の環境を整え、化粧や髪型の手入れがしやすいよう工夫しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度の食事レクリエーションを通じて、入居者が楽しめる環境を提供しています。個別の希望に基づき、好みや要望に合わせた食事を提供し、ご家族とも連絡を取り合っって好きな食べ物を持参してもらうよう配慮しています。	食事は業者から提供されているが、ご飯は炊飯して提供している。月に1回は職員が調理して利用者に提供したり、外食に行ったり、出前をとって利用者に提供をしている。食事レクリエーションのリクエストは利用者にお聞きしている。関連事業所の畑に芋ほりに行って、その芋を使って調理して提供したことがある。	

R6.11自己・外部評価表(事業所名GHポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、変化があれば迅速に対応しています。定期的なカンファレンスで情報共有し、入居者の状態やニーズに合わせた支援を確認しています。食事時間や形態の調整を行い、適切な栄養摂取と健康維持をサポートしています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の助言を基に、職員に口腔ケアの指導を行い、質の向上を図っています。口腔健康は全身の健康と密接に関係しており、適切なケアは生活の質を向上させます。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを使って入居者の排泄パターンを把握し、個々のペースに合わせた排泄誘導を行っています。パターンに変化があればシートを更新し、失禁を減らす取り組みをしています	排泄チェック表を作成している。排泄のパターンをつかんで、各々の利用者がトイレ誘導であるのかパット交換対応であるのか、排泄チェック表に分かりやすく記載されている。また、排泄の介助時間も分かるように記載されている。この取り組みにより、失禁の回数が減ったことがある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄褥瘡予防委員会では、入居者の排便状況を共有し、便秘の原因を探り、改善のための体操やもち麦ご飯の提供などを行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事前に入居者へ入浴の声掛けを行いご本人が入りたいタイミングに考慮している また馴染みのシャンプーや石鹸など家族に依頼し 入浴を楽しむことができる支援を行っている	入浴は週2回実施している。浴槽をまたぐのが難しい場合は、シャワーキャリー等に座ってシャワー浴を提供している。浴室は個浴対応であるが、利用者が入浴される毎にお湯を入れ替えて対応している。季節に応じた入浴(菖蒲湯、ゆず湯)も提供している。利用者が入浴したくないと言われた際は、入浴日を変更する等、利用者に併せて対応をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活サイクルに合わせて起床や就寝のケアを行い、日々の様子を記録しています。状態に変化があればカンファレンスを実施し、必要に応じて24時間シートを変更します。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導の薬局と連携を取りながら、薬の効能や副作用に関して、薬の変更時などについて職員間で共有を行っています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや本人の意向を踏まえ、夢実現のサポートを通じて、好きなことや食べたいものなど、生活の楽しみを提供しています。		

R6.11自己・外部評価表(事業所名GHポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩の機会を設け、事業所近隣を散歩したり、事業所玄関にベンチを設置してくつろげる空間を作り、一人ひとりの希望に沿った支援を行っています。	近隣の神社や大通りまで散歩に行き、花を見に行ったりしている。利用者と職員が一緒に買い物に行ったり洋服を買ったりする利用者もいる。花見やアジサイ、コスモスドライブに行ったりしている。外出先については、利用者にお聞きしたり、時には外食にも行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を所持することができ、買い物を希望された場合は、職員や家族と一緒に買い物に行き、好きな物を購入することができるよう支援を行っています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時の契約の際に、入居者と家族との電話連絡のやり取りの説明を行い、入居者が家族へ電話を希望されている場合は電話連絡できるよう支援を行っています。また、入居者が家族あてにハガキを送ることで交流の機会を作っています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまねユニットは「和」を、たまよりユニットは「和風モダン」をコンセプトにしています。各ユニットには観葉植物を配置し、落ち着いた暖かみのある空間を演出。食堂は車椅子でも移動しやすく、リビングにはテレビを設置して居心地の良い環境を提供しています。	共用空間にはテレビ、ソファ、テーブル、椅子、観葉植物、オーディオ等が置いてあり、音楽が流れている。観葉植物が多く置いたあたり、中庭にも植物があつたり緑が多い環境である。天井は高く床も木調の床であるため、温かみを感じる要素が多くある。ブックスタンドに本や雑誌が置いてあり、いつでも自由に見ることが出来るようにしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには対面ソファを配置し、入居者同士がゆっくり話せる空間を提供。中庭や食堂には個別の椅子を設け、自由に過ごせる環境を整えています。これにより、入居者が自分のペースで過ごし、交流の場を大切にしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅に近い環境で暮らせるよう、馴染みのある家具や物を持参してもらうよう家族に依頼しています。定期的に居室を見直し、必要に応じて家族と相談しながら好みの物を取り入れ、居心地の良い環境を提供しています	アンティーク調の家具や椅子、箆笥等を置いていたり、利用者が作成した作品を部屋の中に飾っている利用者もいる。介護用ベッド、電灯、カーテン等の基本的な設備は事業所が設置している。居室の窓が大きく作られているため、光の差し込みが多く明るい環境である。また、緊急時には屋外へ避難しやすい作りとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースでは入居者の目線に配慮した配置を心掛け、安全な動線と手すりを設置しています。これにより、自由な移動と安全を確保し、快適で安心感のある環境を提供しています。		